

2010年2月21日

子どもの育ちを地域で支えるためにSTにできること

中川信子(言語聴覚士)
NPO法人「ことのはサポート」 副理事長
子どもの発達支援を考えるSTの会 代表

「STは毎日仕事で人に親切にできるんだよ。
いい仕事だと思わないかい？」



みんなで支えて・・・

言語発達の主な法則

1. 全体性
言語発達は全体的な発達の一部である。
2. 順序性
発達には一定の順序性と方向性がある。
3. 個人差
発達には個人差がある。特に、発達期には個人差が大きい。
4. 理解先行
言語理解は言語表出に先行する。
(分かるのが先、言えるのは後)
5. 生理的要因と環境の相互作用
言語発達は子ども自身の伸びる力と、子どもを取り巻く環境との相互作用によって促進される。

子どもにかかわるSTの仕事

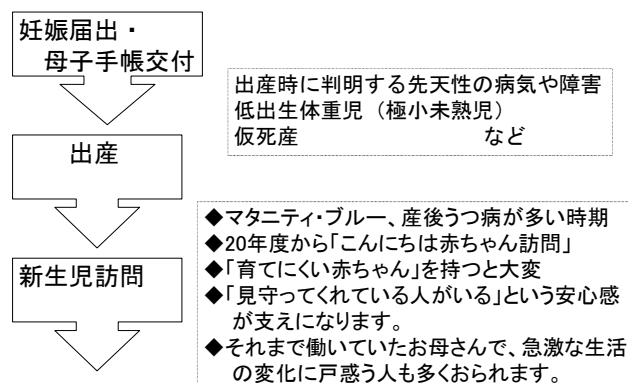
- 1)子どもへの直接的かわり
狭義の言語訓練・指導・(個別・集団)
- 2)環境調整 周囲への働きかけ
- ◆知識を伝える、アドバイス、見通し
 - ◆コミュニケーションスキルアップ
 - ◆“障害”の受け止め(子どもの状態の正しい理解)を助ける受容的な面接
- 正しい理解 ⇒適切な対応 ⇒学習が促進され能力が向上
- 3)子どものSTについての社会的啓発活動

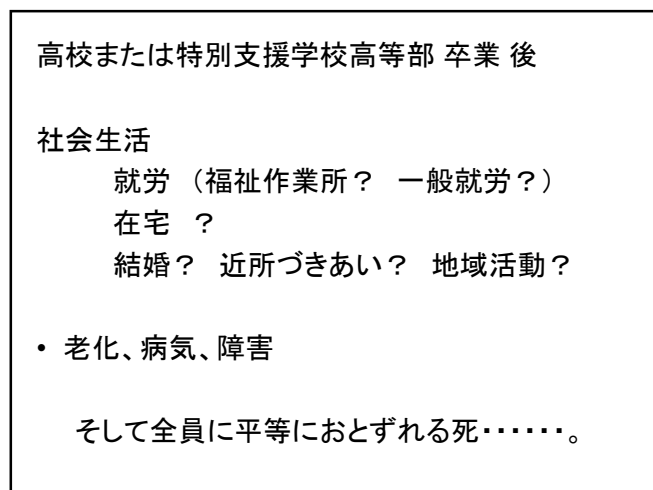
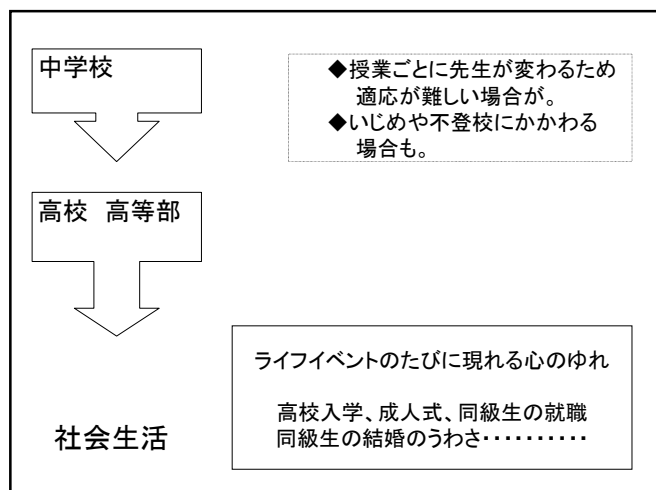
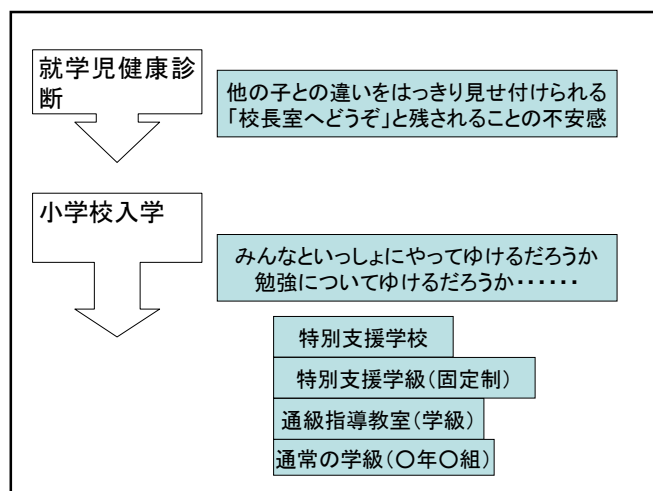
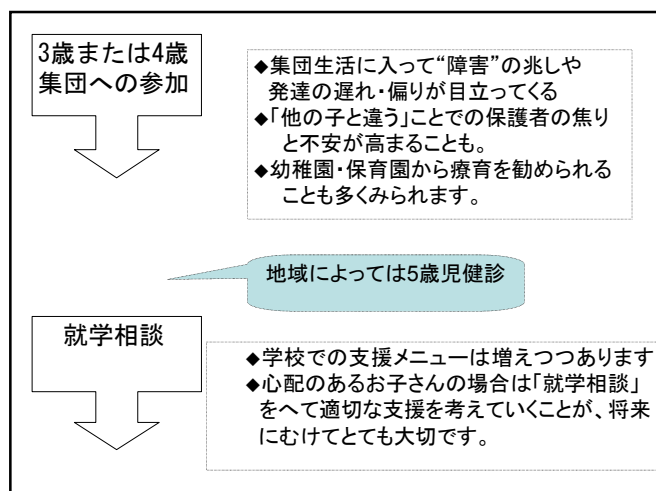
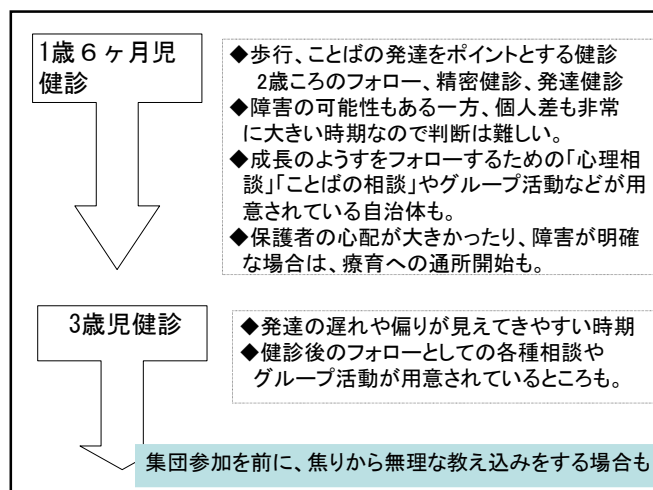
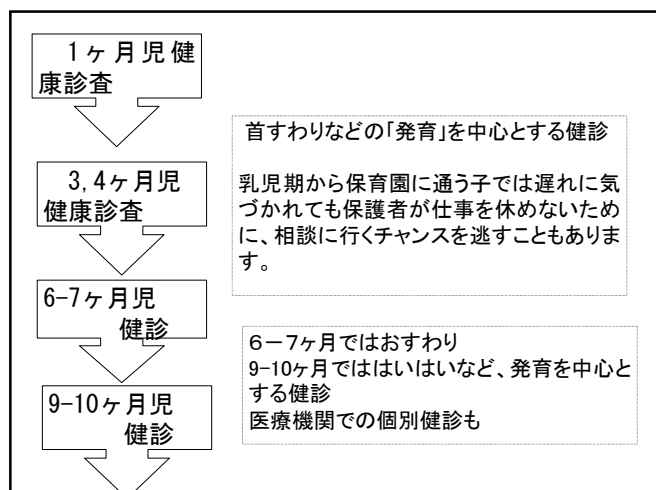
地域とは？

- 地域とは、人がそこに生まれ、成長し、生活し、学び、働き、やがて歳をとり、衰え、病み 死に至る場所

Live	生活する、	生きる
Life	生活	生命

出生からの生涯にわたるケア





私にとっての地域は

調布市

昭和51年から非常勤としてのかかわり
調布市あゆみ学園、小中学校や保育園の巡回
総合福祉センターST部門
健康推進課「子どもの相談室」

狛江市

自分が住んでいる市
＝保護者として保育園・幼稚園・小学校・学童保育所・中学校などを経験
個別的に相談を受ける
保育園や学校での講演や研修会講師
早期療育事業“ばる”の立ち上げ
健康支援課「ことばの相談」
特別支援教育の小中学校巡回
教育委員 各種の委員会委員(次世代育成 市民福祉推進)

いずれも低頻度(3ヶ月おき、1学期に一回、1ヶ月に1回)程度のところが多かった。

STらしいことは、ほとんど何もできていない……

にもかかわらず、子どもたちは、驚くほどの成長をとげてゆく

なぜだろう？



子どもは言語訓練によって(のみ)伸びるのではない

生活の中で、地域の連携の中ではぐくむ

スペシャリスト

(専門性をもちピンポイントで関わる人)
(例:ドクター、ST、保健師、療育担当者等)

+

ジェネラリスト

(支援という立場で、長い時間を一緒に過ごす人)
(例:教員、保育士、幼稚園教諭、保護者等)

両方の役割分担と連携・協力をじょうずに作り出す

狛江というフィールドと私

ナカガワ 何をしてる人？(1)

大学は教育学部教育心理学科卒
ST(言語聴覚士)歴 36年

昭和50年から調布市で仕事して来ました。
あゆみ学園、総合福祉センター、保育園の巡回、健診後の相談
特別支援学級の巡回 等々

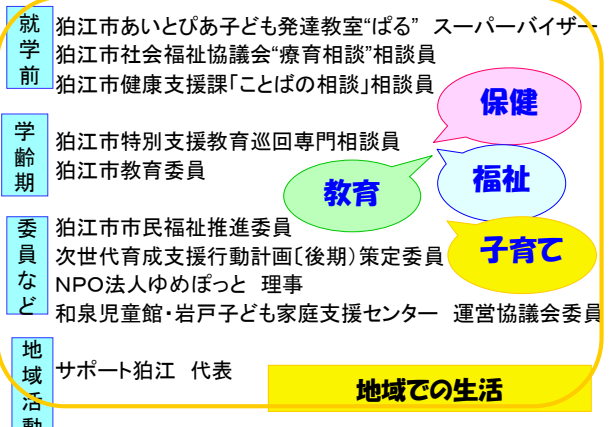
狛江には昭和57年、長男の小学校入学を機に転入

息子二人は、市内の保育園・幼稚園、学童保育所、旧八小・三中で
お世話になりました <m()m>

調布市健康推進課「子どもの相談室(ことば)」相談員
調布警察署協議会委員

子どもの発達支援を考えるSTの会 代表
厚生労働省 発達障害者施策検討会構成員(委員)

ナカガワ 何をしてる人？ in 狛江

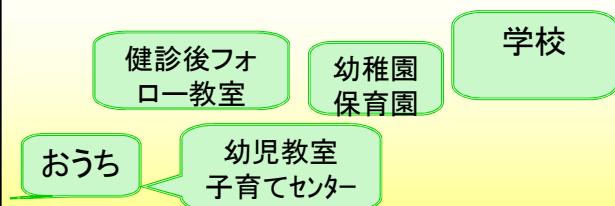


私の役割は

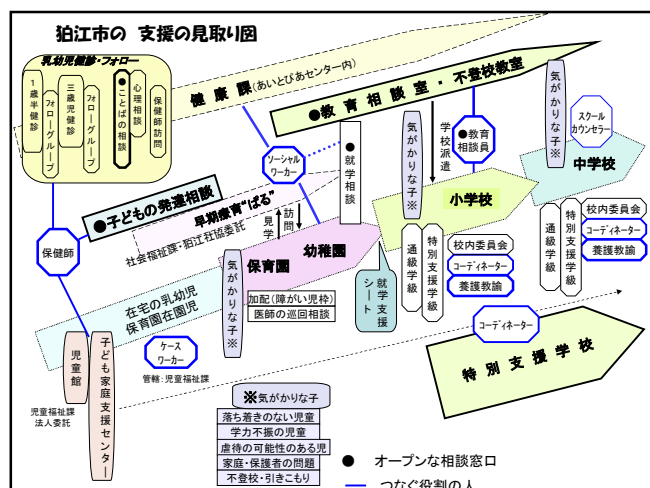
- 1) 「ことば」「コミュニケーション」という専門性を窓口としつつ
- 2) 一箇所に所属しない(＝肩書きを背負う)一市民として
- 3) 非常勤(＝地域に滞在する時間が長い)という立場を生かして
- 4) 子どもが健やかに育つために、地域のいろいろな場をつなぐ役割を果たして来た(行政と市民、教育委員会と保護者 など)
- 4) 何でも屋兼地域のオバサン
- 5) それというのも粕江大好き人間 だから

地域で子どもの育ちを支えるために

子ども：成長と共に、居る場所が変わる



STは「ことば」「コミュニケーション」を切り口に、
さまざまな場に入りこんでゆける
＝「つなぐ」職種 になりうる



市民団体「サポート粕江」のお仲間と
「粕江市育ちの森マップ」を作りました。
(粕江市内の支援の必要な子に関わる支援ネットワークマップ)
平成21年度市民協働提案事業

基本的な考え方は

↓
「子どものいる所には必ず障害のある子どもがいるはずだ」
「市内のすべての人に、相談窓口、支援機関を知らせよう」

3月初旬に、「サポート粕江」HPに掲載予定です。

まとめ：専門職としてのSTにできること

- ・ 専門性を窓口として、対象者(子ども)にかかわる。
- ・ 専門性を窓口として、生活の場で、子どもにかかわる人たち(ジェネラリスト)の力量を高め、共に協力して子どもの育ちに(間接的に)関与できる
- ・ 「ことば」を窓口、機関同士を「つなぐ」役割

まとめ(2): STとは

「ある人を大切に思い
その人に大切に思われ
そして、少しでも世の中のために
なることをする」人のこと

「互いを“よき者”として認め合うまな
ざし」を持てる専門職